

活動事例

太陽の光を利用した実験や遊び

環境をデザインする

活動スケジュール：令和6年9月から令和7年2月

テーマ設定理由：太陽の当たり方による温度の違いに関心をもつ幼児について、この実践を通じて太陽光の特性やその現象について興味・関心を深めていくため。



<準備した物>

○カラービニール、買い物かご、風船、温度計、鏡

幼児が太陽の光を感じられるよう天気の良い日に戸外で活動した。建物や自分の影の他、太陽の光ををより分かりやすく捉えられるよう、上記のような用具や素材を準備した。

探究活動を実践する



自分の影を見て「すごい長い！」と実際の自分の大きさとの違いを不思議に思ったり、友達と自分の影を比べて「みんなこっちにできてるよ」と同じ方向に影ができること、建物の中に入ると自分の影がなくなることに気付いている。大きな影の中に入ると寒く、日向は暖かいことを体感する中で、太陽の光と熱の関連性について考えたり気付いたりしていた。



その後の生活の中で、太陽が当たっている部分の水道を使用した際に「こっちの水がぬるい気がする」「太陽が当たってるからかも」「太陽が当たってないほうの水は冷たいよ」と気づき、太陽に当たっていた水とそうでない水の温度の違いを体感するとともに、水温計を使って実際に計測し「やっぱりそうだ！」と確かめたり、その後も温度計で日向と日陰の気温を測ったりし、太陽にの力で温められることによる温度の違いに興味をもつようになった。

振り返りを踏まえた気づき

夏にはタライの水がお湯になることや、抜いた雑草がカラカラに乾燥することに気づき「夏は太陽の力が強いんだね」と遊びや生活の中でも太陽の熱について興味をもっていた。今回の実験ではさらに太陽の光にも着目し、太陽と反対側の方向に影ができることや、どの影も同じ向きになることに気付いていた。また風船やビニールなど透過性のあるものは太陽の光を通すため影も変化することを体験を通して気づき、その後の遊びの中で、違う素材ではどうなるのか試し「これだと黒い」「色の影になった！」と確かめたり、太陽が曇ると「影が薄くなった」とさらに気付いたりする姿が見られた。